和歌山県地域・自治体問題研究所＆和歌山自治労連

30周年記念事業韓国視察報告

研究所事務局　西　岡　　敏

研究所では、設立30周年を記念して、昨年から先進地視察を検討してきました。ちょうど和歌山自治労連も結成30年ということで、合同で韓国の地域づくりの視察をやろうということで、5月23日～26日に実施しました。

今回は、概略的な報告をします。

忠清南道まちづくりサポートセンター前で記念撮影

和歌山県地域・自治体問題研究所と和歌山自治労連は合同で、２０１９年５月23日～26日（３泊４日）韓国の農村における地域づくりと韓国の労働運動を視察しました。参加者は研究所メンバー７名、自治労連メンバー３名の合計10名。

当初20名の募集をして、締め切り時点で15名の応募がありました。しかし、実施までにそれぞれの事情で５名が参加を取り止め、最終的に10名の視察団となりました。

ガイド兼通訳の金壽榮さん

今回の視察をコーディネイトしてくれた梁炳賛教授

具滋仁農学博士（忠南マウルづくり支援センター長）

５月23日朝９時に関西空港に集合し、11時10分発のティーウェイ航空で韓国のインチョン空港に行き、そこから専用小型バスに乗り約１７０㎞離れた洪城郡にある忠清南道まちづくりサポートセンターへ移動しました。約２時間のバス移動中は、現地を案内してくれたガイド兼通訳のキム（金壽榮）さん（アリラン航空）が、韓国の歴史や日本との歴史的な関係等についての説明をしてくれました。

サポートセンターに到着後、広州大学のヤン（梁炳賛）教授の紹介で日本語に堪能なグー（具滋仁）農学博士（忠南マウルづくり支援センター長）から「韓国農村再生のためのローカル・ガバナンスのシステム

わかやま住民と自治
発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9　太田ビル203号
TEL･FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp　2019年7･8月号
2019年6月25日発行　第310号　（月300円）

目　次

和歌山県地域・自治体問題研究所＆和歌山自治労連
30周年記念事業韓国視察報告
研究所事務局　西岡　　敏 …1
私が一目惚れした　この「神野」
100年先まで静かで美しい里であるように
元かつらぎ町四郷地区地域おこし協力隊員　松野　恵理 …3
１人区で、自民党幹事長の地元･御坊で、なぜ、勝利できたのか②
― 草の根の勝利。歴史的な一歩 ―
くすもと文郎はげます会　大川　克人 …6

若者協業農場の施設内で張さんと意見交換している様子

づくり」をテーマにした報告をしていただき、意見交換を行いました。

その後、センターで働いている若いユリ（張紐利）さんの案内で、現地の農業高校等関係施設を回り説明していただきました。

その後、グー先生はじめヤン先生や現地で活動されておられる皆さんと夕食しながら、交流し充実した意見交換が行われました。

２日目は、昨日交流した張さんたちが運営している若者協業農場を訪問。まずユリさんの案内で、有機農法によるビニールハウスの野菜栽培を見学した後、張さんと1問1答での意見交換を行いました。

若者協業農場の張さん

現地の案内をしてくれた張紐利さん

その後、約55㎞離れた扶餘に移動し、百済時代に作られた国宝の五層石塔がある定林寺跡博物館を見学した後、国立扶餘博物館で有名な百済金銅大香炉や百済時代の国宝に指定されている展示品などを見学。更に約30㎞離れた公州へ移動し、国立公州博物館で百済の武寧王陵から発掘された国宝を見学。夕食はヤン先生の勧める韓国料理の居酒屋でヤン先生と交流し、帰りには地元のお祭りを見学し、公州韓屋村で宿泊。

西大門刑務所博物館

国立扶餘博物館の百済金銅大香炉

３日目は、約１４０㎞北のソウルに移動し、日本が朝鮮を植民地化した１９０８年（明治41年）に作られた西大門刑務所博物館を見学。この刑務所は、日本帝国主義からの独立運動や独裁政権時代に民主化運動をした人たちを収監した刑務所です。大韓民国の独立と民主化の歴史を後世に伝えるために博物館として保存されています。

この後、ソウル市の労働組合役員の皆さんとの交流会で意見交換した後、韓国で平和活動している金承國氏の話を聞き意見交換をしました。

最終日の26日は、お土産を買ってインチョン空港から12時25分発のティーウェイ航空の飛行機で無事帰ってきました。

ソウル市役所の職員組合の皆さんとの意見交換会

私が一目惚れした　この「神野」
100年先まで静かで美しい里であるように

元かつらぎ町四郷地区地域おこし協力隊員　松　野　恵　理

松野恵理氏

今回は、かつらぎ町四郷地区の地域おこし協力隊員として3年間活動され、今年4月に終了された松野恵理さんに寄稿をお願いしました。
松野さんは地域おこし協力隊員を終了されてからも「神野」に住んで、地域の人達とのつながりをとおして地域での生活を楽しんでおられます。

【自己紹介】

かつらぎ町四郷地区、串柿の里として有名な天空の里。その中でも、串柿の広い干し場と茅葺の家で毎年多くのメディアに取り上げられる「神野（こうの）」と呼ばれる集落に２０１６年かつらぎ町四郷地区地域おこし協力隊として移住、３年間の任期が終了し、令和が始まると同時に一移住者としての暮らしをスタートさせた松野恵理といいます。

産まれたのは瀬戸大橋の足元、岡山県倉敷市の小さな漁村でした。物心ついた頃には岡山市にほど近いニュータウンへ移り住み、学生時代は愛知県、30代も半ばの頃に大阪へと移り住みました。若い頃はニュータウンからとにかく早く出たくて、都会へ移り住みいわゆる青春を謳歌、社会人経験を積み重ねるうちに、いずれは田舎で暮らしたいと願うようになっていました。

現在、非正規社員は増え、事務職の多くは派遣社員というのも当たり前になってきています。私が社会に出た頃には、派遣社員というとまだ専門職で、スキルを活かした自由な働き方、スキルを磨けば時給も上がるというイメージがありました。パソコンが本格的に出回り始め、ＯＡスキルを磨けば引く手あまた、データ入力から始まり、エクセル・ワード・パワーポイントに加えアクセスが使える、パソコンスキルを磨くことで時給も一般事務よりは高く、仕事は途切れることがない。働き始めた頃は、派遣社員という立場になんの不安も感じることなく、やりがいや面白みを感じていたものでした。世の中の動きは早くて、気が付いた時には猫も杓子も派遣社員。どんなにスキルを磨いても、どんなに仕事を覚えても、どんなに会社に詳しくなっても、どんなに社内の人たちといい関係を築いていても、３年マックス。いつもこれからという時に、仕事を離れる、そしてまた０から始まるため時給はいつまでたっても変わらない。漠然とこのままではいけない、生き方を変えないと、と思うようになっていました。

【本気の生き方改革】

本気で生き方を変えよう。そう思ったのは２０１１年３月11日、東日本大震災の日。テレビに映し出される光景、刻々と流れてくるネット情報。誰かの犠牲の上での繁栄、便利な生活、いつ自分の身に降りかかってくるとも知れない自然災害。今生きている時間を大切に使わなきゃ。満員電車で過ごす往復２時間、お客さんの顔の見えない仕事に８時間、人に気を使いながらのランチに１時間。その先にあるものは？自分はどう生きたいのか、まず何ができるのか。その時に私にできたことは小さな家庭菜園を始めることでした。当時は年老いた母親と姉と３人で大阪の富田林市に住んでいました。富田林は少し行くと緑が広がり、家庭菜園を見つけるのは容易なことでした。農業なんて全くやったことはありません。母親はベランダで多くの植物を育てていたので、母親にもやりがいや外に出ていろんな人と触れ合う機会になればいい、そして私は、いつか自分で野菜を作って自給自足生活ができるように、経験を少しでも積もう、そんな想いで、踏み出した小さな一歩。

それまで、家から大阪市内へと通う日々で、住んで

移住先の風景

いる地域のことなど全く知りませんでした。小さな畑から地域へと目を向けると、そこにはいろんな素敵なことがありました。寺内町では地域を活性化するようなイベントを開催しているのを知り、ボランティアで関わり始めました。

２０１４年、派遣社員を辞め、個人事業としてのペットシッター業を開業、保護猫カフェでのアルバイトや、地域活性化イベントが縁で知り合った人の誘いで、市民活動を支援するＮＰＯでの仕事も兼務するという３足のわらじを履く日々が２年間続きました。２０１５年の春、母親が亡くなり、大阪にいる理由を特段に見つけることができなくなったのをきっかけに、数年後にでも、ここで暮したいと思えるような場に出会えたらと、地方移住の情報を集め始めました。

【移住までの道のり】

移住するなら高野山の近く、橋本市・紀の川市・かつらぎ町・高野町に的を絞り、情報収拾を始めたのは２０１５年の夏。大阪で開催された移住相談会に何度か参加し、やはり現地を見ないことには何も決められないと思っていたところ、かつらぎ町新城地区での現地体験会が開催されることを知りました。それが始めてかつらぎ町に足を踏み入れた時でした。地域の人たち、自然、町の職員さん、立ちはだかるハードル。地域の印象は悪くはなかったものの、超えなければいけないハードルの高さ、具体的には移り住むために必要な改修に掛かる費用（水道設備の取り付けが必要）の高さに、移住までの道のりの遠さを感じたものでした。現地体験会からひと月後、大阪で開催される移住相談会でかつらぎ町が来るということを知り、直前まで迷った挙句、「今日行かなかったら、移住できないか、できても5年以上は先になる」と直感。そこで出会ったのが、四郷地区と、地域おこし協力隊という制度でした。

移住するにあたっての高いハードル、住む家（状態にも左右されます）、そして仕事。地域おこし協力隊制度は、3年間という期間限定ではあるものの、家と仕事のサポートを受けることができる、移住を決断するハードルを一気に下げてくれました。地域おこし協力隊に応募するかどうかを決めるためにもと現地を訪れ、地域内を案内していただいた時に、あの家なら紹介できそうだと見せてもらったのが現在住んでいる家です。移住するまでの私は直感がとても働いていて、その集落、家を見てすぐ、「あ、ここ。ここがダメなら、また数年かけて他を探そう。」と思いました。そこからは急転直下で移住が決まり、２０１６年5月、かつらぎ町四郷地区の地域おこし協力隊として着任し、7月から本格的に四郷での生活が始まりました。

【地域おこし協力隊としての活動】

四郷地区での活動は、地域活性化を目指した団体「四喜（しき）の会」の活動のサポート、公民館事業のサポート、地域行事への参加、それらの情報発信。

四喜の会は、和歌山県の過疎化対策補助金事業として２０１３年に発足。四郷が喜びに溢れるようにと「体験プログラム事業部」「語り部事業部」「食品加工事業部」「太鼓の里実現事業部」の4つの事業部を柱として活動をしています。それぞれ具体的には、体験部は、ホタルの養殖・夏休み子ども木工教室・ピザ作り体験など、語り部は、年に1度の串柿の里語り部ツアーの企画・運営、食品加工は、イベント時のお弁当作りなど、太鼓は四郷千両太鼓としての活動を行っています。

公民館では、年間通じて様々な講座を企画・運営しており、様々な年代の人が交流するような仕掛けを考えていました。また、老人会が主体となった高齢者学級、育成会が主体となる子ども夏祭りなどもあり、公民館に地域おこし協力隊の事務所を置かせてもらうことで、地域の人たちと広く交流することができました。

四郷はかつての「四郷村」で、現在は「平」「広口」「滝」「東谷」の4つのエリアの総称、地図上の地名はありません。同じ村だったとはいえ、4つのエリアはそれぞれ独特な講や座が数多く残っていて、地域の人たちからの情報を元に参加させていただきました。また、四郷といえば何と言っても「串柿」。串柿の生産・出荷・審査・高野山奉納・セリといった一連の流れも、取材と称して立ち会

体験農園えみちゃんファーム

わせていただき、普通なら立ち入ることのできないような場所へも同行させてもらいました。

それらのことは毎朝８時にＦａｃｅｂｏｏｋ「かつらぎ町四郷地区地域おこし協力隊」のページで発信していました。Ｆａｃｅｂｏｏｋでの発信は、当初大阪の友人たちに近況を報告するような軽い気持ちで始めましたが、気がつくと地域の方々はじめ、遠く四郷を離れた人たちの元へも届いており、「遠くに住む娘の方が四郷のことに詳しくて、なんでかなと思ったら、毎日情報発信してくれてたんやね」と声をかけられることも何度かありました。また、月１回発行される「公民館便り」にも活動報告とエッセイを寄稿し、普段あまり公民館へ来館することのない人からも、毎月の公民館便りを楽しみにしていると声をかけられるようになり、「情報発信」は私の活動の主だったものとなりました。同時に、情報発信をすることによって、地域のことを知り、地域の人たちにも知られるようになり、単に移住するより、早く深く、地域へ溶け込むことができたと思っています。

【生業を考える】

地域おこし協力隊の課題として、任期が終了した後、定住するための生業をどうするかということがあります。様々な選択肢、起業・継業・就職、中には他へ移住という人もいます。３年間、そのことを念頭に活動してきましたが、私の場合は、正直３年では短いというのが感想です。１年目で、地域のことを知り、環境（風土・気候）に慣れ、人（生活風習など）に慣れ、２年目で、何ができるのかを模索し始め、３年目で方向性が何となく見え始めたところで期限が来てしまいました。元々何か特技ややりたいことやスキルがあって起業するという人にとっては３年間の準備期間は妥当なのだろうなと思います。

地域おこし協力隊の３年間、四郷はまさに旧時代から新時代への転換期でした。大阪との県境、鍋谷トンネルの開通１年前に着任、２年目にトンネル開通、そして開通後の３年目。トンネルが抜けることで、たった１日で、四郷は大きく変わりました。私の３年間は、協力隊としてやってきたことを生業に繋げられないだろうかと考え続けての日々、私がしてきた活動は、ボランティア色の強いことばかりで、どこから、どうやって仕事としての価値を認めてもらえるのだろうと、その答えを見つけるには、３年は短く、地盤となる四郷はあまりにも急激に変わっていきました。

【いつか土地の人に】

任期終了とほぼ同じくして四郷にオープンしたカフェがあります。運営母体はかつらぎ町内の障害者就労支援事業者。四郷でカフェオープンの計画が上がった時から、地域を理解したい、地域の人たちにも受け入れてもらいたいという姿勢を感じる方々で、私のことも何かと気にかけてくれていました。現在、自分の想いも優先できるような形で、彼らとともに働く環境を、お互い探り探りですが整えていこうとしています。私には移住を考えた時から、どこで、どんな人たちに囲まれて、どんな気持ちで最後の時を迎えたいかというイメージがあります。そこにたどり着くために、畑はやりたい、田んぼもやりたいと、いくつか夢を持っていました。振り返れば、着実に夢はかなっています。地域のおばあちゃんの困りごと相談から始まった耕作放棄されようとしていた畑は今、鍋谷トンネルすぐ横の体験型農園「えみちゃんファーム」として少しずつ歩みを進めています。草や虫を敵とせず農薬や化成肥料を使用しない栽培を体験したり、社会的な肩書きなどから解放され素の自分で過ごしたりできる場を、ここで作っていきたいと、そしていつか、私が一目惚れしたこの「神野」が、１００年先にも静かで美しい里であるように活動することで、私もまたこの地で生かされていくようなことをしていきたいと、それが私の目指すところ。協力隊を卒業した今、自立への不安・責任感と同時に自由を感じています。

ファームのお野菜四郷カフェ内で販売

1人区で、自民党幹事長の地元・御坊で、なぜ、勝利できたのか ②

― 草の根の勝利。歴史的な一歩 ―

くすもと文郎はげます会　大川克人

大川克人氏

4月7日の統一地方選挙で、1人区の御坊市選挙区で9期目を目指していた自民党ベテラン候補に競り勝った「くすもと文郎」候補の勝利を、はげます会事務局の大川克人氏が分析した寄稿の続きです。

4．圧力と支配、利益誘導の政治を変えた、市民と共産党の共同の勝利
―燎原のような広がりをみせた選挙戦―

マスコミ各社は「保守分裂の間隙をぬって…」「市長選のしこりが…」とよく表現されています。はげます会では、そう思っていません。長年の「支配と圧力」「利益誘導の政治」に対する御坊・日高郡市民の思いが選挙の結果だと思っています。全国的には、安倍自民党政治に対する不満が、野党統一の方向へ動くことになると思いますが、御坊・日高では、二階氏の支配から脱却し、開かれた県政をめざすことでした。

御坊市政では、圧力と支配、利益誘導がまかり通っていました。大きな変化は、2年前の市長選です。二階氏の長男と相手候補が現市長の退陣を迫ったのです。これに反発し、反二階の動きが表面化してきました。このことを、マスコミは「保守分裂、市長選のしこり」というのです。

相手陣営は、「共産党には負けられない」「御坊の1議席を共産党にわたせない」と、政策論議ではなく「大切な1議席は自民党に」というだけに終始しました。応援の弁士は「共産党はどういう組織か知っていますか。日本には破壊防止法があって、その対象になっている組織です。オーム真理教と同じようなものです」とまで演説しました。あろうことか、知事が「御坊の1議席が、共産党では困るんです」と演説しました。許せない暴挙です。その演説を聴いて、「自民党ではダメだ。今度はくすもとや」と決めたと言う有権者の声もありました。

はげます会に最初から参加してくれている方、くすもとの演説会で発言した方、「応援しますニュース」に名前を掲載した方に「なんで共産党を応援するの？」と、相次いで抗議の電話がありました。その方々は「なんで悪いの。私はくすもとが好きや」と、キッパ

私は くすもと文郎さん を 応援します
（第一次中間集約）

石橋健一（塩屋町）
井上常雄（塩屋町）
岩本伊兵衛（御坊町）
岩本好史（元市職員）
岩本佐代子（主婦）
上山眞美（同級生）
馬部壽城（元小学校長）
馬部佳太郎（元中学校長）
小川勝児（塩屋町）
小川周司（元市職員）
小田富生（同級生）
垣内祥志（同級生）
柏木京子（同級生）
金崎龍哉（同級生）
鎌田孝一（御坊町）
木下治郎（湯川町）
切目二美（同級生）
小竹　勝（塩屋町）
小水恵里（主婦）
阪本　昇（元小学校長）
笹　光男（湯川町）
芝　元（同級生）
塩崎洋治（野口）

同級生として応援します。

共産党は置いといて、くすもと君を応援します。

前区長として応援します。

子供らの未来のための活動を！

立野勝之（元市職員）
田中秀幸（元市職員）
田中雅子（同級生）
田淵浩規（自営業）
津村節子（元市職員）
玉置哲史（元市職員）
永井五雄（塩屋町）
中島　武（元市職員）
中野武一（御坊町）
中野　寿（元中学校長）
中村眞幸（塩屋町）
濱西佑次（元小学校長）
藤田敦子（飲食業）
古田光明（同級生）
堀田貞夫（猪野々）
本田宗二郎（塩屋町）
前田宣志（同級生）
山村明治（塩屋町）
山本零子（主婦）
湯川省三（塩屋町）
吉岡伸悟（漁業）
吉本真太郎（元中学校長）
米原史夫（野口）

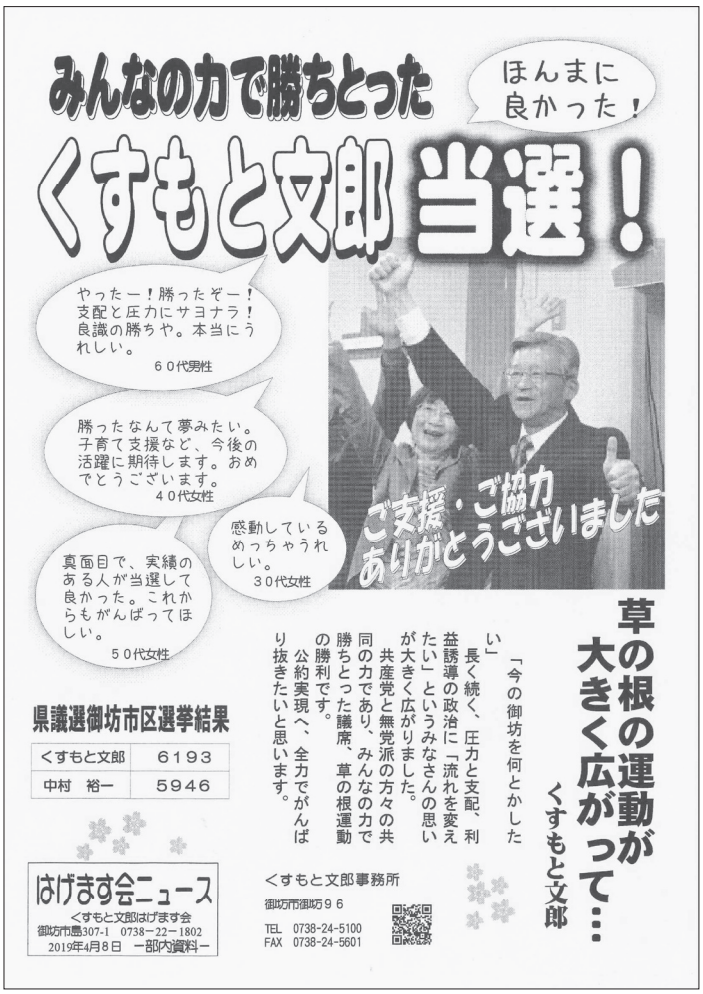
市民のための政治を貫いて！

県議としての仕事に期待しています。

５０音順
敬称略

くすもと文郎ホームページ
https://humirou-kusumoto.jimdo.com/

はげます会ニュース
くすもと文郎はげます会
御坊市島307-1　0738－22－1802
2019年3月　―部内資料―



リ答えてくれました。そして、「腹が立つ」と言って、支持拡大にがんばってくれました。「意地でも勝たなアカン」と、知り合いはもちろん、お客さんにまで支持を増やしてくれるお店の方もいました。支持を訴えてくれた方は、４００名を超えました。

選挙の中盤から終盤になって「何かできることはないか」と、事務所を訪れる方が多くなりました。元校長先生、元養護教諭の先生、元保育園長さん、理髪店の方、御坊町内の老人会の会長さん、御坊市自治会連合会の役員の方、事務所の近所の方など、当初のはげます会から一回りも二回りも協力・支援の輪が広がりました。また、御坊市内だけでなく近隣の町からの支持の訴えが広がりました。

その中に、市役所ＯＢ３名の方がいました。候補者カーに車で伴走し、応援演説をしてくれました。これは、住民にとっては「くすもとの応援団に市役所の人もいてる」と、新鮮に受け止められました。選挙戦の最後まで続き、演説だけでなく支持を拡げる活動もしてくれました。

中盤には、お昼に「女性のパワーを爆発させて、勝利を」と開催した女性の決起集会に35名、夕方には「はげます会の力を爆発させよう」の決起集会に50名が参加し、最後まで気を緩めず闘い抜くことを確認し合いました。その後の４日間の動きは最高でした。知人・友人へ「広げてほしい」と訴え続けました。参加者が増え、一気に全市的に訪問活動ができました。電話での訴えも加速しました。日に日に質的にも量的にも運動が大きくなってきました。

マスコミの取材も多くなり、選挙戦は熾烈を極め、激戦です。相手候補は「自民党公認、公明党推薦の…」「大切な１議席は共産党にわたせない」など、自民党の強調と共産党攻撃に終始しました。はげます会では、「相手候補を非難し、攻撃するようなことは絶対にしない」との申し合わせがあり、政策と人柄を訴え続けました。地方紙では「自民党の議席を」（相手候補）「防災対策と御坊を元気に」（くすもと）と報道されました。有権者の反応は「共産党への攻撃ばかりでアキアキ。くすもとさんは政策を言っている。選挙はこれでなかったらアカン」と支持されました。

まだまだ、たくさんのドラマがありますが、一言で言うと「市民と共産党の共同の勝利」です。

5．今後の展望　市民との共同の闘いを発展させたい

くすもとの当選は、「市民との共同」を発展させるスタート位置に着いたということです。それを発展させて、支配と圧力、利益誘導の政治にサヨナラし、市民のための政治を創りあげていくことが大きな課題です。

御坊・日高地方の活性化へ向けてどう取りくんでいくかが問われます。防災対策や国保問題は、緊急の課題です。また、花卉栽培や木材などの地場産業をどう発展させるかの方向性も必要です。エネルギー問題では自然エネルギーの活用も課題です。御坊を元気にするための課題はいっぱいです。

「はげます会」は、くすもとと共に関係者のみなさんと懇談し、一緒に要求を練り上げ政策化していきます。例えば、自治会役員のみなさん、建設業界や農・漁業関係者のみなさん、子育て世代や商店街のみなさん、市役所や郡内の町役場のみなさんとしっかり話し合いたいと思っています。

市民のための政治は、トップダウンではなくボトムアップでしか実現しません。今後も、みんなで相談しながら民主社会の実現をめざしたいと思っています。

和歌山県地域・自治体問題研究所

2019年度 総会・映画上映・記念講演

とき 2019年

7月27日(土) 10:00～15:30

ところ 有田川町

きびドーム・多目的研修室

有田川町下津野2021　電話 0737－52－2111（代表）

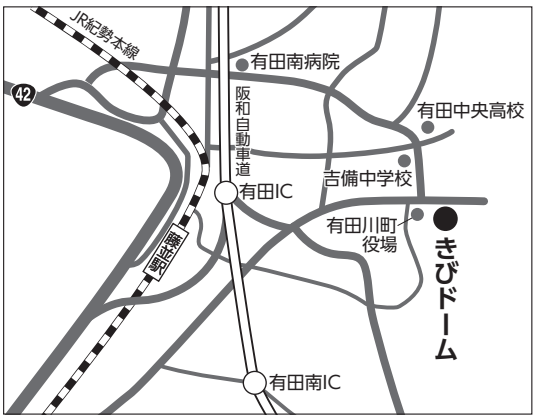
今年の総会では、国民負担が大きな問題になっている「国保問題」をテーマに記念講演をすることにしています。また、総会の後、昨年度から掲げてきた30周年記念事業、自然エネルギーによる地域づくりをテーマにした「おだやかな革命」という映画を上映することにしています。

総　　会 10：00～11：00

映画上映 11：10～12：50

「おだやかな革命」

監督 渡辺智史氏



記念講演 13：30～15：30

「国保問題を考える」

講師 寺内順子氏（大阪社会保障推進協議会事務局長）

お問い合わせは 和歌山県地域・自治体問題研究所 和歌山市太田２丁目14-9　太田ビル203号
TEL・FAX073-488-3127